

読み聞かせ推進及び町の歴史・民話の創作紙芝居制作・伝承事業

取組に至る背景・事業の目的

申請団体は、町の小・中学校の読書イベントや、高齢者施設・公民館等で読み聞かせ活動を行い、読書の習慣化を図ってきた。立科町には、素晴らしい民話や人物伝があることから、この地元の民話を基にしたオリジナルの紙芝居を作成し、地域文化の伝承を図ることとした。

なお、申請団体は平成20年度、21年度にも地域発 元気づくり支援金を活用し、オリジナルの大型紙芝居計3作を制作している。

事業内容

- 町に伝わる民話や歴史を掘り起こして、史実に基づいた大型紙芝居「堰を拓いた六川長三郎勝家」「津金寺の仁王様」の2作を制作した。
- 制作過程では、史実の確認等のため町の文化財保護委員や歴史研究会、子孫等の関係住民の協力のほか、小学校5年生の総合学習の授業や中学校美術部による作画などにより、多くの住民の参加を得た。



【制作した紙芝居】

事業効果

- 制作した紙芝居を、小・中学校の読書イベントや高齢者施設・公民館等で上演したことで、地元住民の町の民話や偉人に対する知識や関心が深まり地域文化の伝承に寄与した。
- 関係する地域住民との調査研究や小中学生との制作活動等を通じて、交流の輪が広がった。
- 地元ケーブルテレビでの放映や新聞掲載等により、紙芝居の制作活動が認知され、町外からの上演依頼があった。



【紙芝居の上演風景】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 住民の協力により収集された資料や古文書の解読に地元の専門家に参加をいただいたことで、史実を踏まえた話の内容とすることができた。
- 紙芝居の上演や普及に力を入れるとともに、地元の立科町には、まだ多くの民話等があることから、さらに紙芝居の制作を進め、地域文化の伝承を図りたい。

【選定のポイント】

この紙芝居は、小学校、高齢者施設、公民館等での上演が定着しており、町の民話や歴史への関心を高め次代へ伝承する素晴らしい立派な取組であり、他地域からも活動が注目されている。

団体名	立科町お話バスケット（立科町）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	代表 寺島澄恵	事業費	254,751円
	電話 0267-56-3267	支援金額	254,000円